

〔第30回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

加齢に伴う唾液腺の線維化メカニズム 解析：ADAM17発現と 上皮間葉転換の関連性

口腔疾患研究部

四釜 洋介 副部長

2024年11月19日(火) 15時00分～

第1研究棟2階大会議室

これまで我々は、加齢による唾液腺の器質的変化の1つであるリンパ球浸潤に着目し、唾液腺実質細胞の関与や、自己免疫疾患であるシェーグレン症候群に伴うリンパ球浸潤との共通性を明らかにしてきた。しかしながら、加齢による器質的変化には、脂肪変性や線維化等も知られているが、その詳細な病態メカニズムは明らかになっていない。本セミナーでは、特に線維化に関連した研究成果を発表させていただく。ADAM17はTACEという名でも知られており、サイトカインや細胞接着分子、受容体、リガンドのプロセッシングに関与し、その過剰発現・機能異常は慢性炎症や自己免疫疾患、線維化に関与する事が報告されている。また、唾液腺上皮の初代培養細胞を不死化せず細胞増殖・分裂を促す技術を用い、*ex vivo* で複製老化させ、上皮間葉転換に関連した解析を行った。その結果、腺房細胞よりも導管上皮細胞の方が細胞老化に伴い間葉転換しやすいことを見出している。その他、2型糖尿病治療薬であるメトホルミンのADAM17発現に及ぼす影響、そのシグナル伝達経路に関する解析結果も併せて発表させていただきたい。

座長：四釜 洋介 副部長

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)